

就業体験学習「キャンプ砂防2017」を行いました。

平成29年8月21日（月）から8月25日（金）に、就業体験学習として大学生を対象に「キャンプ砂防2017」in渡良瀬を実施しました。今年度の実施テーマは『渡良瀬川の歴史と砂防～豊かで安全な地域を目指して～』と題し募集したところ、日本大学（2名）岩手大学、静岡大学の5名の学生が、インターシップ学生として参加し、渡良瀬川管内における砂防事業の取り組み及び施工体験、旧足尾町の産業と歴史について学びました。



【閉講式】

22日には足尾地区において、午前は足尾歴史館で足尾の歴史について学び、午後は松木川上流の現在も残る荒廃地をGPS測量実習をおこなうと共に、この流域にある砂防堰堤の老朽化設備（松木川1号砂防堰堤等）の実態を調査しました。



【足尾歴史館】



【環境学習センター】



【ドローン荒廃地調査】



【老朽化設備点検】

23日には、環境学習センターの見学、緑化連携事業の重要性を学ぶと共に、体験植樹を行いました。砂防事業の施工現場を訪れ布団籠の施工について実態を学習しました。



【体験植樹】



施工体験（布団籠）

24日午後には、施工中の工事現場見学で、石積み施工等の体験講話や実作業を行い、様々なカリキュラムで砂防工事について学習を行い、全日程を事故等なく、無事に終了することができました。



地域講話【わ鐵社長】



施工体験（石積み）

25日最終日の幹部職員との懇談会における「キャンプ砂防生」の感想として

- 砂防キャンプでは多く体験し、森林問題などの課題も砂防事業に関係してくることを知った。今後、土木構造物の管理をする技術者として、自然環境との共存は忘れてはならないものだと思えることができた。
- 「今中山間地域における地域づくりにはについては、地域との連携・協働が重要であると感じた。様々な体験を通して砂防事業の実態を把握することができ、自ら計画を立てて大きな仕事することに興味を抱き、やりがいのある仕事だと感じた。
- 勉強しているだけではわからないことを体験して学ぶことができ、現場を見て学ぶことの大切さがありました。
- 砂防事業に関わっている民間の会社の方々のお話等、色々な体験をさせてもらうことで、自分の興味がなかったような部分も、話を聞くことによって興味もわいたし、職の一つとして意識した。

「最後に現地案内等ご協力を頂きました皆様にお礼を申し上げます。」と述べました。